福島県立安積高等学校

平成 31 年 3 月 22 日（金）

おもて

デブリ、どうする？

取り出したデブリはどう処理するのか。そもそもどう取り出すのか。さらにデブリとはなんなのか。

うら

デブリの性質は？最終的な処理方法は？
取り出すための技術が足りないことに対する対策は？

デブリ … 溶け落ちた燃料
このデブリが汚染物をだす源となっている。これをどうするかは、まず原子炉内のデブリの状態の調査が必要。画像をとったり、温度をみるなどだ。それを基にして、具体的な取り出し方を考える。方法は主に、レーザを当てたり、ロボットを使い、つかんだり削ったりすることだ。今はデブリが触れられることが分かったので、その方向で技術開発が進んでいる。しかし取り出したデブリを処理する方法や場所が決まっていない。

取り出す方法の確立や技術の発展
人材の確保が大切

おもて

わかりやすい情報がもっとほしい!!

専門用語ばかりでわかりにくいのではないか
廃炉に関心がない人を巻きこめるのではないか
情報量を増やすことが課題解決につながるのか

うら

興味はあるが、知識はまだ無いという人が、正しく理解できるようにするために、発信者はどのように伝えるべきか。

<現状>	<解決策>
・情報量が多すぎる。	・情報の要点をしぼる。
・専門用語が多くて難しい	・難しい表現を減らす
・開示された情報にふれるきっかけが少ない	・学校で関連した授業を行う。
・繰り返し同じことを言っている。	

情報量が多く難しいため、要点をしぼって簡潔にまとめ、情報にふれるための宣伝などを積極的にしていく。

おもて

健康被害の不安払拭

背景

放射線について無関心な人の「放射線は危険だ」というネガティブなイメージをなくしていくためには……？

うら

課題
・一度固まったイメージを壊すには何度も説明する必要がある
放射線について無関心な人に学習する機会をどう提供するか

答え
・アニメ、ドラマ映画等で楽しみながら廃炉原発周辺の現状を伝える手段をつくる。
・上記のような手段で小中学生で放送し原発について興味を持ってもらう。
・特産品などを通じてポジティブなイメージをもってもらう

見通し
・みんなで廃炉に取り組むようになる
・伝える人が増えていく
・今後原発事故が起きても誤解しなくなる

おもて

廃炉作業が終わった後の近隣の環境はどうなる？

・完了した後に残る土地は、活用できるのか。
また、その土地は安全な状態にできるのか。

・作業員の人々の雇用はどうなるのか。

・周りの自然環境はどうなっているのか。
また、どうなっていくのか。

うら

・活用できるように環境をどのようにして安全な状態にもっていくのか
・作業員の人達の廃炉が終わった後の雇用はあるのか

原発事故の起こる前の土地（福島）に戻すためには、
人をたくさん福島に来てもらうことが最も必要なことだろう。
今、原発周辺の地域は人口不足に悩まされている。
そのため、復興が困難な状態にあります。
しかし、福島は原発事故により注目されている土地でもあります。
そういったことを放射線学習の土地として限ることで
人口不足は改善できるでしょう。
人口不足を改善することで、復興への大きなかけ橋となるでしょう。
また、原発の汚染物質を取り出すにはたくさんのロボット技術が関わっています。
原発の廃炉が終了すればそれらの技術をまた
新たな技術利用が可能になるでしょう。
福島は廃炉により培った高度な技術を日本の産業に
応用することも可能でしょう。

人々を福島に呼び入れることが
一番大事だと思う。

1FDⅣ 第4回福島第一廃炉国際フォーラム
はいろのいろは・共創ワークショップ